

特定外来生物

ウシガエル

両生綱 無尾目 アカガエル科 *Lithobates catesbeianus*生態系被害防止
外来種リストの区分

重点対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

基礎情報

原産地

・アメリカ合衆国東部・中部、カナダ南東部

現在の分布

- ・食用として世界各地に導入され定着している。ヨーロッパ諸国、韓国などでも輸入が禁止されている。
- ・国内では、北海道南部から沖縄県、小笠原諸島に至る広い範囲に定着している。
- ・県内では奥三河山間部を除き、中山間部から平野部にかけて広く分布している。



侵入の経緯

- ・1918年に養殖目的で移入され、その後も何回か移入された。一時は肉を缶詰として輸出するため各地で養殖され、逃げ出したものが定着した。

形態

- ・日本のみならずアメリカ合衆国でも最大のカエルで、体長 18.3cm に達する。
- ・水生傾向が強く、後肢の水かきはよく発達する。
- ・体の色は緑色から褐色まで様々で、不規則な褐色斑が入るものが多い。
- ・背中に線がないことと、大きな鼓膜が特徴（オスの鼓膜は目よりも大きい）
- ・幼生（オタマジャクシ）も大型で、全長 15.0cm になる。黒い斑点がある。



成体（オス）



幼生（オタマジャクシ）



変態途中の幼生



幼体（子ガエル）

生息環境

- ・水深のある池沼や大きな水路に生息し、かなり水質汚濁の進んだ場所でも生存できる。

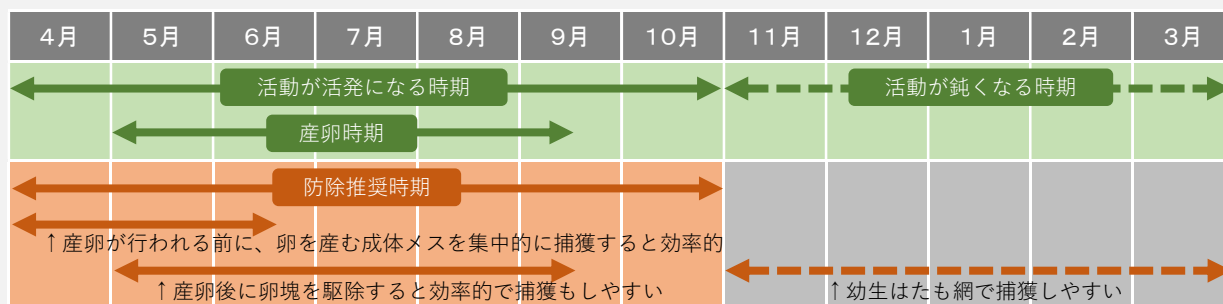
生態・ライフサイクル

- ・夜行性で、昼間は水草の中や水辺周辺の茂みや窪地に隠れている。オスは「ウオーウオー」とウシに似た太い鳴き声を出す。
- ・貪欲で捕食性が強く、口に入る大きさであれば、ほとんどの動物が餌となる。昆虫やザリガニの他、小型の哺乳類や鳥類、爬虫類、魚類も捕食する。
- ・産卵時期は長く5～9月上旬。卵塊は水草の多い水辺の水面にシート状に浮かぶ。一腹の卵数は最大 40,000 個に及び、繁殖力が強い。
- ・成体は1年中見られる。幼生(オタマジャクシ)で越冬し、孵化した翌年に成体に変態することが多い。変態直後の幼体は雨後などに水辺から離れて他の水辺に分散する。



水面に浮かぶ卵塊

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・成体は体長 10cm を超えるため、類似種との識別は容易である(アズマヒキガエルを除く)。
- ・幼体(子ガエル)の類似種として、水辺に生息するトノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ニホンアカガエル、ヌマガエル、ツチガエルなどがある。
- ・十分に成長した幼生(オタマジャクシ)は全長 10cm を超えるため、識別は容易。黒い斑点がある。

類似種	識別のポイント
アズマヒキガエル	・体全体がゴツゴツしている。 ・体は茶褐色や黒褐色。 ・動きがにぶく、跳ばずに歩く。 ・水辺以外でもみられる。 
トノサマガエル ナゴヤダルマガエル ニホンアカガエル	・背中に線(中央または両側)がある(ない個体もあるため要注意)。 ・背中にややイボがある(トノサマガエル・ナゴヤダルマガエル)。 
ヌマガエル ツチガエル	・背中にイボがある。 ・体は白褐色や茶褐色で緑色の部分がない。 

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

影響・被害

- ・非常によく増え、昆虫類や他のカエルをはじめとする様々な小動物を捕食するため、河川や湖沼の生態系に大きな影響を及ぼす。
- ・希少な在来種の捕食や、水辺に生息するトノサマガエルなどの在来のカエル類との餌資源をめぐる競争など、生態系への影響が懸念される。在来のカエルが基本的に陸上で舌を伸ばして捕食するのに対し、ウシガエルは水中の小動物を捕食する能力も持つ。
- ・他県では、ウシガエルが侵入・定着したために、かつて生息していたモリアオガエルが見られなくなった池や、ウシガエルの増加とともに在来のカエル類がほとんどみられなくなった島もある。

生息・被害の確認方法

- ・水際を踏査し、成体の鳴き声の有無を確認する。夜行性のため、夕方や夜間の方が効率的。人が近づいたりして驚くと素早く水中に潜りなかなか出てこないため、目視での確認は難しい。
- ・水辺を踏査し、水中の幼生（大きなオタマジャクシ）や水面上の卵塊を目視確認する。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



水中の幼生（オタマジャクシ）

防除方法

- ・根本的な解決を図るためには、ワナ等により個体を捕獲して駆除することが最も効果的である。
- ・一旦駆除しても、近隣の水辺から新たに侵入してくる可能性があるため、生息状況を継続的に監視し、必要に応じて駆除する必要がある。

推奨時期

- ・ワナによる成体の捕獲は、水温が上がり活動が活発になる4～10月の実施が推奨される。
- ・水温が低い冬はほとんど活動しなくなるため、たも網で捕獲しやすくなる（特に幼生）。
- ・産卵が行われる前（春～初夏）に産卵前の成体を駆除すると、効率的に減らすことができる。
- ・産卵時期（5～9月上旬）に孵化前の卵塊を駆除すると、効率的で捕獲もしやすい。

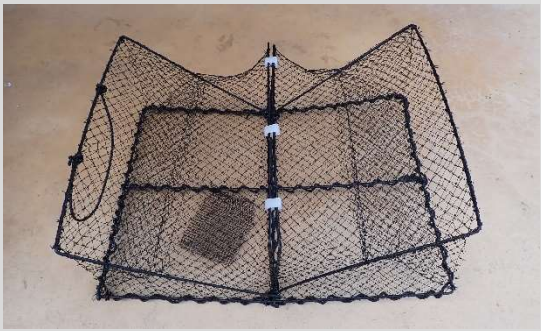
具体的な防除方法

- ・成体は動きが素早く、警戒心が強いいため、たも網での捕獲は困難
- ・成体の捕獲方法として、アナゴワナ、カニかご、塩ビ管などのワナを使用した方法や、ワームなどの疑似餌を用いる釣りがある。ワナでは在来のカエル類も捕獲（混獲）されるため要注意。夜行性のため、釣りは夜間の方が効率よく捕獲できる。
- ・幼生（オタマジャクシ）はたも網などで捕獲する。幼生で越冬し、変態まで1年間を要するため、秋から冬の間に池干しなどで幼生を全滅させる方法もある。
- ・卵塊はたも網などを用いて水面からすくい取り、天日干しする。取りこぼしがないよう注意を要する。
- ・捕獲した個体（成体・幼生）は殺処理する。殺処理の方法として、冷凍庫での冷凍処理（マイナス20度以下で24～48時間以上保管する）や物理的な殺処理がある。
- ・殺処理後の最終処理は、一般廃棄物として廃棄する（各自治体の基準に従う）。食用とすることも可能だが、寄生虫対策として加熱処理が推奨される。



池干し時に捕獲した幼生

【ワナの種類】

種類	アナゴワナ	カニかご
形 状		
概 要	エサで誘引。設置・回収は容易。活動が活発な時期(4～10月)に適している。	エサで誘引。設置・回収は容易。活動が活発な時期(4～10月)に適している。
設置場所	ため池・池沼・流れのゆるい河川	ため池・池沼・流れのゆるい河川
設置期間	前日に設置し、翌日～翌々日に確認する。エサがなくても捕獲できる。	前日に設置し、翌日～翌々日に確認する。エサの交換が必要。
設置・回収の方法	ロープ等で岸に固定する。水に入らなくても1人で設置・回収が可能。	エサ(魚肉ソーセージなど)を中に入れ、ロープ等で岸に固定する。水に入らなくても1人で設置・回収が可能。
費 用	2,000～3,000 円程度 釣具屋・ネット通販でも購入可能。	2,000～3,000 円程度 釣具屋・ネット通販でも購入可能。
留意事項	混獲された在来種が溺れないよう、完全に水没させないように設置する。空のペットボトルを浮きの代わりにワナの中に入れてもよい。	混獲された在来種(カエル類、カメ類、魚類、カニ類等)が溺れないよう、完全に水没させないように設置する。

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(行う場合は手続等が必要)である。
- ・体表にぬめりがあり、滑りやすいため、手でつかむ際には保護手袋(軍手等)を着用する。
- ・成体だけでなく、幼生(オタマジャクシ)および卵も生きたまま運んだり、別の場所に放したりすることが禁止されている。
- ・ワナに在来のカエル類、カメ類、魚類、カニ類等が混獲される可能性がある。これらが捕獲された場合は速やかに放すようにする。



アナゴワナの設置

必要な法令上の手続き等

- ・愛知県漁業調整規則に基づく特別採捕許可(漁法や漁具により必要となる場合がある)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 両生類 > ウシガエル(国立研究開発法人 国立環境研究所)
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/40020.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > ウシガエル(環境省 自然環境局)
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-ryo-04.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 両生類(環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/4hp_ryoseirui.pdf
- ・特定外来生物ウシガエル(環境省 中国四国地方環境事務所,2014)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021(愛知県,2021) p.60 ウシガエル(矢部隆・島田知彦)

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

植物